

黄金のアデーレ 名画の帰還

Woman in Gold

観賞日 2019・6・24

【概要】

制作 2015 年 英・米
監督 サイモン・カーティス
音楽 マーティン・フィップス、ハンス・ジマー
出演 ヘレン・ミレン (マリア・アルトマン)
ライアン・レイノルズ (ランディ・シェーンベルグ)
ダニエル・ブリュール (フベルトウス・チェルニン)



【あらすじ】

1998 年、ロサンゼルスに住むマリア・アルトマンは知りあいのランディ・シェーンベルグ弁護士と共にある裁判を起こす。その裁判とは叔父のフェルディナントが叔母のアデーレをモデルにクリムトに描かせた肖像画をオーストリア政府から返還させるというものであった。

ウィーンに飛んだマリアとランディは現地の協力者チェルニンと三人で調査を開始、返還審問会に臨む。しかし、審問会の結論はクリムト作品をそのまま美術館に留置くというものであった。納得のいかないまま帰国したランディはアメリカで裁判をすることを決意。折角、就職できた一流法律事務所を退職し、退路を断って裁判に臨む。裁判の戦術を巡り対立する二人であったが、ウィーンでの調停でオーストリアが過去に行った間違いを回復する機会であると主張するランディの意見がとおり、返還が認められる。勝ったマリアが最後に見せた涙のわけは？

「オーストリアのモナ・リザ」と称されたクリムトの名画の返還を巡る実話の映画化。

【解説】

■ポイント

●グスタフ・クリムト (1862 年～1918 年)

- ・世紀末ウィーンの代表的画家
- ・日本文化の影響を受ける (1873 年：ウィーン万博に日本も出展)
- ・ブロッホ＝バウアーは芸術家のパトロンで、無名当時のクリムトを援助していた

●「黄金のアデーレ」の数奇な運命 (移転の状況)

- ・1907 年作、138cm×138cm
- ・移転：①アデーレ②ナチス・ドイツ
③フェルディナント・ブロッホ＝バウアー
④オーストリア政府 (ベルベデーレ美術館)
⑤マリア・アルトマン
⑥ロナルド・ローダー (NY、ノイエ・ガレニア)
- ・2006 年にローダーが落札した価格は 1 億 3500 万ドル (上記⑤から⑥、約 150 億円)



【参考】1987 年に安田火災 (当時) が落札したゴッホの「ひまわり」は 53 億円。

●ナチスの美術品略奪

- ・ヒトラーは首相就任の 1933 年から終戦の 1945 年まで主としてヨーロッパ諸国から 60 万点の美術品を略奪したといわれる。(現在でも 10 万点は行方不明)
- ・ヒトラーは青年時代に画家を志望しており、特にユダヤ人富裕層の所有していた美術品は略奪の対象とされた。
- ・特に、オールド・マスターの収集には力を入れ、逆にモダン・アートは退廃芸術とされ破壊されたものもあった。